

## リベラルアーツ専攻入学前教育課題

下記に転載している【課題 1】、【課題 2】のいずれかを選び、作成要領に従ってレポートを完成しなさい。

### 【課題 1】

下記に転載している渋沢栄一の『論語と算盤』の一節『論語』とソロバンは、はなはだ遠くて近いもの』を読み、1,600～2,000 字の小論文を「起承転結」の四段落にして作成してください。なお、引用・参考文献がある場合にはその書誌情報を文末に記入してください。（書籍の場合：著者名、題名、出版社名、刊行年。インターネットサイト記事の場合：記事のタイトル、サイト名、URL、参照した年月日）

### キーワード

論語、算盤、三島毅、道理と利益、基本的な道徳、正しい素性の富

（これらの言葉を一通り調べ確認してください。その中からあなたの発想にヒントを得られる場合もあります。）

**課題文：**『論語』とソロバンは、はなはだ遠くて近いもの』（渋沢栄一著、守屋淳訳、『論語と算盤』ちくま新書、2010 年より）

弟子たちが孔子のことについて書いた『論語』という書物がある。ここには今、われわれが道徳の手本とすべきもっとも重要な教えが載っている。たいていの人は、『論語』くらい読んだことがあるだろう。わたしはこれに、ソロバンというとても不釣り合いで、かけ離れたものをかけ合わせて、いつもこう説いている。

「ソロバンは『論語』によってできている。『論語』もまた、ソロバンの働きによって、本当の経済活動と結びついてくる。だからこそ『論語』とソロバンは、とてもかけ離れているように見えて、実はとても近いものでもある」という。

わたしが七十歳になったときに、友人が一冊の画帳を造ってくれた。その画帳のなかには『論語』の本とソロバン、一方にはシルクハットと大小の朱色に塗った刀のサヤが描いてあった。ある日、学者の三島毅先生が、わたしの自宅にいらっしゃって、その絵を見られると、こういわれた。

「とても面白い。わたしは『論語』を読む方で、おまえはソロバンを探究している方だ。そのソロバンを持つ人が『論語』のような本を立派に語る以上は、自分もまた『論語』だけで済ませず、ソロバンの方も大いにきわめなければならない。だから、お前とともに『論語』とソロバンをなるべくくっつけるように努めよう」。そのうえ、「『論語』とソロバンについて、道理と事実と利益とは必ず一致するものであることを、さまざまな例証をそえて本格的な文章に書いてくださった」という。

わたしは常々、モノの豊かさとは、大きな欲望を抱いて経済活動を行ってやろうというくらいの気概がなければ、進展していかないものだと考えている。空虚な理論に走ったり、中身のない繁栄をよしとしたりするような国民では、本当の成長とは無関係に終わってしまうのだ。だからこそ、政界や軍部が大きな顔をしないうで、実業界がなるべく力を持つようにしたいとわれわれは希望している。

実業とは、多くの人に、モノが行きわたるようにする事業なのだ。これが完全でないと国の富は形にならない。国の富をなす根源は何かといえ、社会の基本的な道徳を基盤とした正しい素性の富なのだ。そうでなければ、その富は完全に永続することができない。ここにおいて『論語』とソロバンというかけ離れたものを一致させることが、今日の急務だと自分は考えているのである。

(解説)

- 一、「起」、書き出しの部分ですが、渋沢の文章を読んで、もっとも印象深いものは何か、文章の中の具体的な言葉を引用して示し、あなたの「問題意識」、つまり「話題」にしたいものを作り出します。
- 二、「承」、上の問題意識について、「正面」から論じていきます。どうして「起」に示した言葉が印象深いのか、あなたの経験したこと、本で読んだこと、あるいは人から聞いたことの具体的な事例を引用して、印象深い「わけ」を説明し、その印象深い言葉に対して評論してみてください。この場合、辞書とか参考書などを利用して文章の言葉の深い意味を調べたり、自分の知識で解釈をしたりしてみると良いでしょう。
- 三、「転」、角度を変えて、渋沢の考え方の現実的意味、今の社会における参考価値、有効性について論じてみてください。あるいは渋沢の言葉を引用して、社会問題、自分の勉学の問題、交友関係の問題などと照らし合わせて具体的に論じてみてください。
- 四、「結」、結論を示してください。以上の論を通して自分の見出した考え方、価値判断を簡潔にまとめ、「起」に示した問題意識から出発して、最終的に自分がどんな結論に到達したかを示します。

## ① 課題の着目点

『論語』そして「算盤」はみんな知っているものであるが、この両者は近い存在かどうか。この両者がどういう角度で結びつくのか。

## ② 課題設定の問題意識

富を完全に永続させるにはどうすれば良いのか。渋沢の考えは今日にも通じているのか。

### 【課題2】

「すべての売れる物語は、主人公が穴に落ちて這い上がる、という形式で書かれている」という説を、いくつかの事例（小説、映画、漫画、ドラマ等）に当てはめて、1,200～1,600字で検証してください。なお、引用・参考文献がある場合にはその書誌情報を文末に記入してください。（書籍の場合：著者名、題名、出版社名、刊行年。インターネットサイト記事の場合：記事のタイトル、サイト名、URL、参照した年月日）

キーワード：

あらすじ（ストーリー、プロット）、ベストセラー（興行収入、視聴率）、カタルシス（アリストテレスの理論）